

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-250754

(43)公開日 平成7年(1995)10月3日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 47 G 33/02

A 44 B 18/00

A 63 H 3/50

識別記号 庁内整理番号

J

A

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全5頁)

(21)出願番号

特願平6-45840

(22)出願日

平成6年(1994)3月16日

(71)出願人 000001085

株式会社クラレ

岡山県倉敷市酒津1621番地

(72)発明者 竹内 孝次

福井県坂井郡丸岡町田屋76-6

(72)発明者 東中 志年

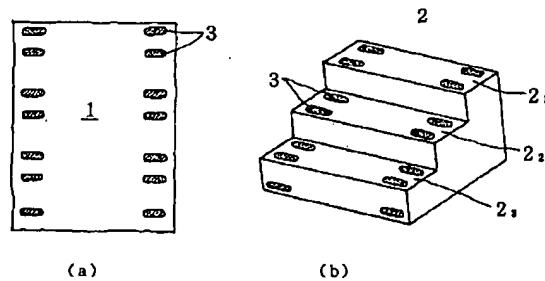
福井県福井市北四ツ居町620

(54)【発明の名称】 段飾り、段飾り用毛氈の固定方法

(57)【要約】

【目的】 飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りにおいて、毛氈をずれることなく安定に固定し、しかもその敷設作業を1人で容易になし得ること、さらに該毛氈固定に毛氈上に異物状物を設けず審美性に優れたものとなし得ること、そのような段飾りを得んとするもの。

【構成】 飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りにおいて、飾り台と毛氈との相対する位置にそれぞれ面ファスナーを取付け、該面ファスナーの係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになった段飾り、また飾り台と毛氈との相対する位置に、飾り台側にはフック側合素子を有する面ファスナーを、毛氈側にはループ機能を有する布帛を、それぞれ取付け、該面ファスナーと布帛との係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになった段飾り。より好ましくは、上記面ファスナーが、フック側素子とループ側素子とが同一面上に混在し該ループ素子の高さが該フック素子の高さより0.1~0.5mm高くなっているものである段飾りである。



(a)

(b)

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りにおいて、飾り台と毛氈との相対する位置にそれぞれ面ファスナーを取付け、該面ファスナーの係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになしたことを特徴とする段飾り。

【請求項2】 飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りにおいて、飾り台と毛氈との相対する位置に、飾り台側にはフック側係合素子を有する面ファスナーを、毛氈側にはループ機能を有する布帛を、それぞれ取付け、該面ファスナーと布帛との係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになしたことを特徴とする段飾り。

【請求項3】 面ファスナーが、フック側素子とループ側素子とが同一面上に混在し該ループ素子の高さが該フック素子の高さより0.1～2.0mm高くなっているものであることを特徴とする、請求項1または2に記載された段飾り。

【請求項4】 飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りの該毛氈の飾り台への固定方法において、飾り台と毛氈との相対する位置にそれぞれ面ファスナーを予め取付けておき、該面ファスナーの係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになしたことを特徴とする毛氈の固定方法。

【請求項5】 飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りの該毛氈の飾り台への固定方法において、飾り台と毛氈との相対する位置に、飾り台側にはフック側係合素子を有する面ファスナーを、毛氈側にはループ機能を有する布帛を、それぞれ予め取付けておき、該面ファスナーと布帛との係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになしたことを特徴とする毛氈の固定方法。

【請求項6】 面ファスナーが、フック側素子とループ側素子とが同一面上に混在し該ループ素子の高さが該フック素子の高さより0.1～2.0mm高くなっているものであることを特徴とする、請求項4または5に記載された毛氈の固定方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、3月人形、5月人形等の段飾りに係り、該段飾りの飾り台に毛氈を1人ですべやく、きれいに敷設可能な段飾りに関するものであり、また毛氈の固定方法に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】雛の節句や端午の節句等において雛人形や武者人形あるいは甲冑、供え物等を飾り台上に飾る際には、その審美性の点から飾り台上に毛氈を敷き、その上に該人形等の飾り物が並べられる。ところで、この段飾りの飾り台に毛氈を美しく敷設するためには、その仕上がりの審美性を必要とするだけに、かなりの熟練と時間とを要するものであり、この作業を容易にするために、

2

従来、次ぎのような提案がなされている。即ち、従来は、毛氈敷設の際、毛氈を飾り台の上からかぶせて敷設し、

①ヘアーピン様のクリップで飾り台（段板）の左右の縁から毛氈をはさみ込み、該毛氈を飾り台に固定する方法、

②飾り台が金属性の場合に、毛氈の上に磁石を置き、該毛氈を飾り台に固定する方法、

③長方形毛氈の上端を折返して、該折返端が雛壇の最上段の棚板に係合するように係合用袋部を形成して該毛氈の上端を固定し、かつ毛氈全長にわたって雛壇を構成する段板および見付板の面積に適応した短冊形の棚段部および見付部が形成されるように折痕が付された折目線を設けることにより特別な固定手段を用いることなく該折目線で棚段部および見付部に沿わせるようになした方法、等が採られている。

【0003】しかし、上記①の方法では、飾り台（段板）の左右からヘアーピン様クリップで挟みながら飾り台に固定するが、ヘアーピン部分でシワやたぐれが発生し易く、かつ滑り止めの効果が小さく、引張により該クリップが外れ易い点がある。また該ヘアーピン様クリップを強力なものとしようすれば、大きく、目立つものとなり、審美性の観点から根本的に好ましいものではない。またこの方式は、いわゆる5尺物、6尺物等の広巾の飾り台の場合、シワやたぐれが無くすっきりと敷設しようとすれば、特にそれを短時間に行わんとすれば、

2人の共同作業が必要となる。一方②の方法でも、毛氈を通して磁力効果により滑り止めをするため、その滑り止め効果（固定効果）は小さく、容易にずれるためきれいに仕上がらない。またこの場合も、磁石のために、毛氈上に不必要な突起物が存在することとなり、雛人形等飾り物の設置に制限を受けるばかりか、審美性の観点から根本的に好ましいものではない。またこの方法は、飾り台の材質に制限がある。更に③の方法は、毛氈上に突起物をつくる点で審美上優れたものであるが、毛氈をその折目線のみで飾り台に沿わせるもので、飾り台上に固定されるものではなく、毛氈の端部に触れたり、引っ掛けたりすれば容易にずれてしまい、根本的にその安定性が悪いものである。以上のように、従来の毛氈の固定方法からなる段飾りは、その毛氈の固定において不安定であり、或は、奇麗に仕上がらず、かつ容易簡単に出来るものではなく、さらに固定手段が毛氈上に突起物として出て審美上からも好ましいものではないのである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的は、飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りにおいて、毛氈をずれることなく安定に固定し、しかもその敷設作業を1人で容易にし得ること、さらに該毛氈固定に毛氈上に異物状物を設けず審美性に優れたものとなし得ること、そのような段飾りを得んとするもので

ある。

#### 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者らは上記課題につき鋭意検討した結果、段飾りを次ぎのように構成することによってその目的が達せられることを見いだした。即ち、本発明は、飾り台と該飾り台上に敷設する毛氈からなる段飾りにおいて、飾り台と毛氈との相対する位置にそれぞれ面ファスナーを取付け、該面ファスナーの係合によって飾り台上に毛氈を固定するようにするか、または、飾り台と毛氈との相対する位置に、飾り台側にはフック側係合素子を有する面ファスナーを、毛氈側にはループ機能を有する布帛を、それぞれ取付け、該面ファスナーと布帛との係合によって飾り台上に毛氈を固定するようになした段飾りであり、より好ましくは、前記面ファスナーが、フック側素子とループ側素子とが同一面上に混在し該ループ素子の高さが該フック素子の高さよりも0.1~2.0mm高くなっているものである段飾りである。

#### 【0006】

【作用】本発明は、毛氈を面ファスナーの係合によって飾り台上に固定するようになしたものであるので、毛氈はワンタッチで固定でき、しかも大きい滑り止め効果（固定効果）が得られるものであるので、1人でもまた未経験者でも簡単、きれいに、すばやく毛氈の敷設をすることが出来る。しかもその固定のために飾り物とは別の余分の物を毛氈上に置くことないので審美性の点で優れている。そして、この敷設の容易性、安定性、審美性は、5尺物、6尺物等の広巾の飾り台の段飾りりにおける毛氈の固定においては、より一層有意性が得られるものである。

#### 【0007】

【実施例】以下に本発明を実施例を用いてより具体的に説明するが、本発明はそれにより限定されない  
図1は本発明の第1の実施例を説明した図であり、

(a)は毛氈1の裏面側を示す平面図、(b)は該毛氈1を敷設する飾り台2の斜視図、をそれぞれ示す。この例の場合、飾り台2の各段板2<sub>1</sub>、2<sub>2</sub>、…、2<sub>n</sub>の各四つ隅に巾1.2~2.5mm、長さ2~5cmの面ファスナー3を粘着方法で貼付け、また毛氈1の裏面側にも前記各段板に貼付けた面ファスナー3に対応した位置に縫製にて面ファスナーを取付ける。この構成からなる毛氈1の敷設は、毛氈1を飾り台2の最上段の段板2<sub>1</sub>より面ファスナー3同志を係合させ、たるみが生じない程度に引張りながら順次下段の段板に移行して敷設する。本発明によるこの敷設の効果は、面ファスナー3の係合による優れた係止効果により毛氈1をたるまない様に引張りながら作業が出来ることであり、これにより仕上がりもよく、かつ1人作業にて容易に敷設出来ることである。

【0008】本発明で用いる面ファスナー3としては、

従来公知の面ファスナーが総て用いられる。毛氈1の裏面側および飾り台2の各段板2<sub>1</sub>、2<sub>2</sub>、…、2<sub>n</sub>に取付ける面ファスナー3は、基布面上にフック側（オス側）係合素子のみ、あるいはループ側（メス側）係合素子のみを設けた、いわゆるオス・メス一対型の面ファスナーのいずれか一方側が毛氈1側に、また他方側が各段板2<sub>n</sub>側になるように取付ければよい。またこの面ファスナーは、オス・メス一対型の面ファスナーに限らず、同一基布面上にフック側係合素子とループ側係合素子とを混在させて設けた面ファスナーであってもよい。

【0009】本発明の対象においては、面ファスナーの必要以上の強固な係合は必要ではない。むしろそれは、毛氈の着脱に際して面ファスナーの係合が強すぎることにより毛氈そのものに皺をつくったり、傷をつけたりすることとなり、好ましいことではないのである。またフック側係合素子が露出していることにより不要箇所との偶発的な引っ掛けによる毛氈の損傷、取扱性の低下が起こるものであり、これは好ましいものではない。このような不必要な係合を避け、皺や傷をつけないために、またフック側係合素子が露出していることによる悪影響をなくすために、上記のフック・ループ混在型の面ファスナーにおいて、ループ素子の高さがフック素子の高さよりも0.1~2.0mm、より好ましくは0.5~2.0mm高くなった、即ち、フック側係合素子がループ側係合素子に隠れた状態で存在する混在型面ファスナーを用いることがより好ましい。無論この場合、毛氈1側および飾り台2の各段板2<sub>1</sub>、2<sub>2</sub>、…、2<sub>n</sub>側へ取付ける面ファスナーとしては、該混在型面ファスナー1種類のみでよいこととなる。

【0010】図2(a)は上記フック・ループ混在型面ファスナー4についての断面模式図であり、同(b)は該面ファスナー4同志の係合状態を示す断面模式図である。なお、符号5は基布、6はフック側係合素子、7はループ側係合素子を示す。

【0011】図3は本発明の第2の実施例を説明する図であり、第1の実施例とは面ファスナー3の取付け形状を変えたものである。(a)は毛氈1の裏面側を示す平面図、(b)は該毛氈1を敷設する飾り台2の斜視図、をそれぞれ示す。即ち、本例は、毛氈1の裏面並びに飾り台2上に取付ける面ファスナー3をより長尺連続化し両者の固定をより安定化させ、敷設毛氈1の面を、ふわつきのない、より平坦化した面として仕上げる場合である。上記の例は、いずれも面ファスナー3を毛氈1および飾り台2の両側端部にのみに取付けたものであるが、これら取付位置に限定されるものではなく、広巾段飾りの様に、必要となればさらに、例えば両者中央部の箇所にも面ファスナーを取付けることも行われる。

【0012】図4は本発明の第3の実施例を説明する図であり、(a)は毛氈1の裏面側を示す平面図、(b)は該毛氈1を敷設する飾り台2の斜視図、をそれぞれ示す。

5

す。この例の場合、毛氈1は、その裏面がループ機能を有する布帛8を一体となしたもので、飾り台2の各段板 $2_1, 2_2, \dots, 2_n$ には図2(a)で示したフック・ループ混在型面ファスナー4を取り付けた例である。ここでループ機能を有する布帛8とは、通常の面ファスナーでのフック側係合素子と係合可能なループや目を持つ布帛であればよく、このような布帛は、通常はニット地や不織布で得ることが出来る。本例の場合、このようなニット地あるいは不織布からなるループ機能を有する布帛8は、毛氈1とは縫製あるいは接着によって一体的に結合することが出来る。本例においては、飾り台2側に取付けた面ファスナー4は毛氈1と接触するだけでは該毛氈の滑りを止めたり、偶発的に係合したりするがないので、該毛氈を飾り台2にかぶせ、各段板並びに見付板に沿わせて敷設する作業が容易であり、しかも毛氈1の裏面にループ機能を有する布帛8を一体とするので、毛氈1はそのたるみのない腰のある状態となり、しかも前記実施例での面ファスナーを取り付ける場合より、さらに平坦な段面を形成することが出来るものである。

## 【0013】

【発明の効果】以上いずれの例にしても、本発明においては、毛氈1の飾り台2への敷設固定を面ファスナーの係合によって行うもので、その固定はワンタッチで容易であるばかりでなく、その固定が毛氈1を引張って敷設してもずれることなく安定に保持出来るという大きな利点を有するのであり、したがって1人で初心者でも容易にきれいに敷設でき、更にその仕上がり面は飾り物以外

6

の異物が毛氈1上に出ず毛氈の美的効果を減ずることがなく、実用上の効果が大きいものである。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施例を説明する図であり、(a)は毛氈1の裏面側を示す平面図、(b)は該毛氈1を敷設する飾り台2の斜視図、をそれぞれ示す。

【図2】本発明で使用する、より好適なフック・ループ混在型面ファスナー4について説明する図で、(a)は該面ファスナー4についての断面模式図、同(b)は該面ファスナー4同志の係合状態を示す断面模式図である。

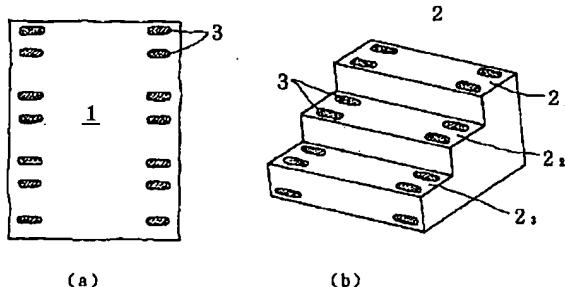
【図3】本発明の第2の実施例を説明する図であり、(a)は毛氈1の裏面側を示す平面図、(b)は該毛氈1を敷設する飾り台2の斜視図、をそれぞれ示す。

【図4】本発明の第3の実施例を説明する図であり、(a)は毛氈1の裏面側を示す平面図、(b)は該毛氈1を敷設する飾り台2の斜視図、をそれぞれ示す。

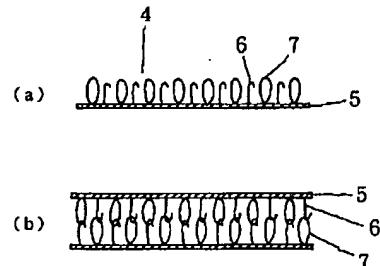
## 【符号の説明】

1	毛氈
2	飾り台
2 <sub>1</sub> 、2 <sub>2</sub> 、…、2 <sub>n</sub>	飾り台の各段板
3	面ファスナー
4	フック・ループ混在型面ファスナー
5	基布
6	フック側係合素子
7	ループ側係合素子
8	ループ機能を有する布帛

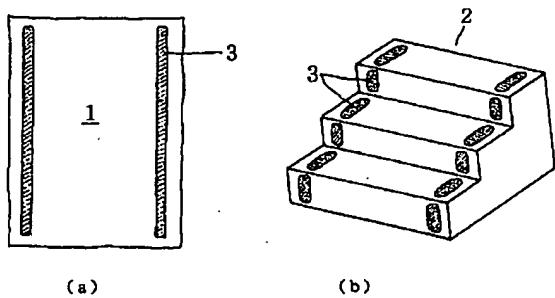
【図1】



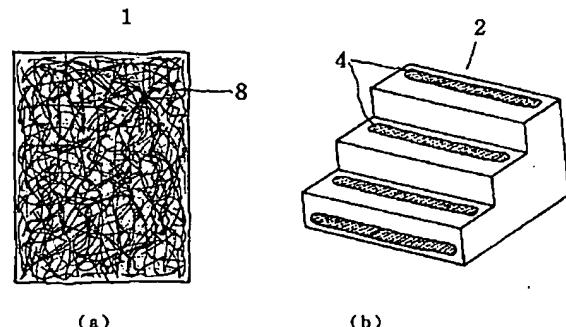
【図2】



【図3】



【図4】



DERWENT-ACC-NO: 1995-385049

DERWENT-WEEK: 199550

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Fixing rugs on step board for decoration stand - employing surface fasteners on both rug and step board

PATENT-ASSIGNEE: KURARAY CO LTD [KURS]

PRIORITY-DATA: 1994JP-0045840 (March 16, 1994)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO MAIN-IPC	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES
JP 07250754 A A47G 033/02	October 3, 1995	N/A	005

APPLICATION-DATA:

PUB-NO DATE	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-
JP 07250754A 16, 1994	N/A	1994JP-0045840	March

INT-CL (IPC): A44B018/00, A47G033/02 , A63H003/50

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 07250754A

BASIC-ABSTRACT:

The method involves a decoration stand (2) with a number of a step boards (21 - 23). The step board has a rug (1) placed on its surface. The rug has a surface fastener (3) corresponding to the surface fastener on the step board.

The surface fastener on the rug has a hook side connection element (6). The surface fastener on the step board has a loop side connection element (7). The loopside connection element merges with the loopside connection element to fix the rug on the step board.

The rug is held tightly to the step board by using both hook side connection element and loopside connection element on the same surface fasteners in the rug as well as the step board. The height of the loop is more than the height of the hook by 0.1 to 0.5mm.

ADVANTAGE - Requires only one person to lay rug on decoration stand.  
Increases  
application of rug for various other decoration purposes.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/4

TITLE-TERMS: FIX RUG STEP BOARD DECORATE STAND EMPLOY SURFACE FASTEN RUG  
STEP  
BOARD

DERWENT-CLASS: P23 P27 P36